

協議会ニュース 131号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2011. 3



アオギリ

脇田 裕子 (名古屋支部)

総会案内

| | | |
|----------------------|-------------|----------|
| COP10 白鳥会場レポート | 尾張支部/大谷 敏和 |P3 |
| 12/23 尾張・名古屋合同研修レポート | 尾張支部/吉田 雅紀 |P4 |
| 支部総会レポート | 尾張支部/奥三河支部 |P5 |
| 支部総会レポート | 東三河支部/西三河支部 |P6 |
| 観察会のヒント | 尾張支部/高谷 昌志 |P7 |
| 私の活動紹介 | 奥三河支部/小山 舜二 |P8 |
| 第6回理事会報告 | |P9 |
| フォローアップ研修会レポート | 名古屋支部/高見 智香 |P10 |
| 事務局より・なごや環境大学共育講座 | |P11 |
| 行事案内・編集部 | |P12 |

＝ 平成 23 年度通常総会・講演会 ＝

愛知県自然観察指導員連絡協議会の通常総会を次の通り開催します。総会は一年を振り返り、新たな年度の事業などを決定する日。日頃出会う機会の少ない遠方の会員との出会いの場でもある総会に、是非ご参加ください。

日時 平成 23 年 3 月 21 日（月・振替休日）午後 1 時～

場所 愛知県教育会館 7 階 第 3、第 4 会議室

名古屋市中区新栄一丁目 49-10

交通：JR 中央線「鶴舞駅」下車、名大病院口側より徒歩 7 分

地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」下車、2 番出口より徒歩 10 分

市バス「県教育会館」下車

市バス「千早小学校」下車、徒歩 1 分

■総会当日は、①同封の総会資料 ②名札 ③マイカップの 3 点を持参ください。

＝ 次第 ＝

12:30 受付開始

13:00 平成 23 年度通常総会開会宣言

1)総会参加者数の報告

2)平成 22 年度の協議会各理事紹介

3)会長挨拶

4)総会議長、書記の選出

5)総会議事

①第 1 号議案 平成 22 年度事業報告

②第 2 号議案 平成 22 年度決算報告
監査報告

③第 3 号議案 平成 23 年度事業計画(案)

④第 4 号議案 平成 23 年度予算(案)

⑤質疑応答 他

14:30 総会終了宣言

～～ 休憩 ～～

14:50 講演会 「(仮) 里山の保全生態学」

講師 夏原 由博 教授

名古屋大学大学院環境学研究科 里山生態学、保全生物学

研究テーマは、①両生類や小型ほ乳類の生息地評価や絶滅リスク推定②生態系のつながりを評価するための指標選定③生物多様性を活かした地域づくりなど。

16:20 茶話会（含 講演の質疑応答 他）

16:50 閉会・後片付け

17:00 会場退去

※ 当日の連絡先 090-3935-8192（事務局：浅井携帯）

※ 総会終了後、希望者にて懇親会（会場から近くの店舗に徒歩移）



夏原 由博 教授



COP10 白鳥会場レポート

尾張支部 大谷敏和

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が10月11日から29日まで名古屋市熱田区白鳥にある名古屋国際会議場で開かれました。会場の近くにある白鳥公園（エクスポゾーン）と熱田神宮公園（フェスティバルゾーン）で国内外の政府や自治体、国際機関、NGO/NPO、学術、企業など208の団体が、生物多様性に関する課題や取り組み、アイデアなどを持ち寄り発信しました。

モリコロパークでの出展はあらかじめ計画に入っていましたが、こちらのブース出展を申し込んだのは締め切り日の6月30日でした。計画もないまの発車でした。というのは「外国からの見学者にも分かるよう」に英語で説明できる人を会期中常駐させてほしい。また説明文も英語でも書いてほしい」という要望があり、対応の難しさを感じていました。またモリコロパークでの出展は、土曜日日曜日で各支部で当番を分担することになりましたが、こちらは月曜日から金曜日の平日9時半から夕方6時半までと、働いている会員ではとても対応できないと思っていました。でもこんな国際会議が名古屋で開かれることは2度ないので、会長と相談して申し込むことにしました。

テーマは「我々がいつも活動している場所で残したい景観」とし、写真展示で申し込みました。言葉で説明しなくても写真なら分かってもらえると思ったからです。でもブースはあまり広くありません。各支部1枚貼るかどうかでした。

充分時間をかけて話し合う時間がなかったため、パネルを支部任せにしたので統一した形式のものはできませんでしたが、結果的には各支部の特徴が出ていてよかったです。

各支部で苦労して英語の角箱を付けたのですが、外の方ほとんど来ませんでした。県のブースには英語で話せる人が派遣されていましたが、数回話しただけです。また、ブースによっては見学者が日本人ばかりなのに日本語の角箱の後に英語の角箱を長々と聞かされるという場面もありました。

毎日最低2人の当番を割り振るのが一苦労でした。



「だれもいな場合は仕事を休んで応援するよ」という心強い言葉もありました。複数の当番があることによって交代で他のブース見学ができ、「来て良かった」という声もありました。結局のべ50名を超える協力者があり、協議会も一丸となってできる団体だと実感しました。

協力してくださった会員や他の団体の方から、ブース展示の方法や工夫についてさまざまな意見を頂きました。協議会をアピールし、どんな団体のブースのかが分かるように観察会の旗を掲げました。煎ったシイを配って食べてもらって足が止まったところで説明するなどの工夫をしました。他府県から同じような活動している方との名刺交換もしました。反省会では、この経験を活かし協議会会員が一致団結していろいろな人にアピールする機会があれば、これからも積極的に参加していくという意見が出ました。

環境省のブースのミニ講演会や特設ステージの団体発表、名古屋学院大学体育館でのフォーラム、企業の環境で配慮した製品開発、企業の活動、企業との協同、市町村の市民とどのように取り組んでいるのか等興味を引くものが多いなか、遠くから自分たちの活動をアピールしにやってきたボランティアの人たちのエネルギーのすごさには感心させられました。

かつて日本人は、山の自然、海の自然、里の自然の恩恵を受けて生きてきました。生活様式が大きく変わった今、私にとって「失ってはいけないもの、残しておきたい大切なものは何か」を考えさせられたCOP10でした。地球の環境、世界の人々の暮らし、食べ物などにも目を向けていくような自然観察会でありたいと強く思うようになりました。

※白鳥会場の報告は前号の紙面の都合により今回の掲載となりました。

合同研修：木曽川の冬鳥

協議会の日：歴史文化環境観察と懇親会

尾張支部 吉田 雅紀

日時：平成22年12月23日(木・祝日)

この日は、「名古屋・尾張支部の合同研修」(野鳥観察)に24名、「協議会の日」の歴史文化研修と懇親会に15名の参加がありました。

好天の中、講師の佐々木さんのとても詳しい冬鳥の説明を興味深く聞きながら、木曽川の多くの冬鳥を観察しました。特にマガモの緑の頭が日差しを受けてビロードのように艶があり、輝いてとてもきれいでした。暖かい日差しを受けて、水面で首を曲げて寝ている鴨が大変多かったです。

※確認した野鳥(30種)

キンクロハジロ、カワウ、カルガモ、カツブリ、カンムリカツブリ、コガモ、オナガガモ、ツグミ、オカヨシガモ、マガモ、アオサギ、カワアイサ、ミコアイサ、ヒドリガモ、ヨシガモ、イカル、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ハシボソガラス、ジョウビタキ、シメ、コゲラ、メジロ、ホウジロ、ノスリ、トビ、キジバト

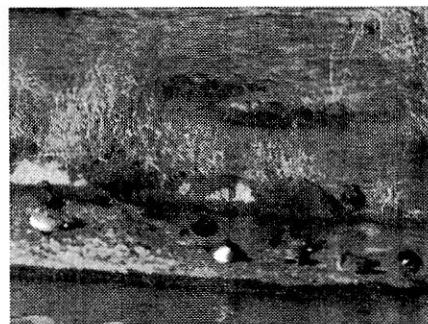
午後からの歴史文化研修では、観光ボランティアガイドの森島さんが犬山城から町並みまで一緒に歩いて、犬山の歴史文化をわかりやすく丁寧に説明してくださいました。おかげで犬山の歴史について大変興味を持つことができました。

そして懇親会では、とてもおいしい地ビールをたらふく飲んで、美味しい料理を堪能し、ピアノの生演奏と美しい歌声に感動し、楽しませていただきました。



▲ 野鳥観察の参加者

最後に！万歩計を持った参加者がいて、懇親会までに2万歩を超えていました。本当によく歩いた研修会でした。みなさま、お疲れ様でした。



▲ ひねたぼっこの冬鳥



▲ 今日確認した鳥の読み合わせ



▲ 犬山城をバックに！

尾張支部総会

尾張支部 齋竹 善行

平成23年度総会は、1月10日午後1:30から名古屋市東区の東桜会館で17名が参加して開かれました。総会では大谷副会長を議長に選出し、用意された議案の審議を行いました。

昨年度を振り返ってみると、生物多様性条約の第10回締約国会議(COP10)の名古屋開催に伴い、記念観察会をはじめ協議会の出展ブースへの運営参加などさまざまなCOP10関連事業が取組まれ、参加した人はたいへんでしたが、それなりに得られたものもあり、有意義な1年であったと思われました。支部の活動は毎月各所(昨年度10、今年度9)で開かれている定例観察会が中心ですが、それぞれの参加者が固定化していることもあり、定例観察会以外に会員が参加しやすい取り組みが必要です。今年度はCOP10関連事業がないので、「あいちの自然観察会」などへの参加を呼びかけることになりました。日程等は次のとおりです。

- ・あいちの自然観察会 5月14日(土) 9:00~12:00 定光寺
- ・なごや環境大学講座 5月29日(日) 9:30~14:00 善師野
- ・一泊研修 7月30日(土)~31日(日)
- ・尾張自然観察会のつどい 12月25日(日) 午後 春日井少年自然の家

また、今年度の役員としては、会長：齋竹善行、副会長：大谷敏和、会計：木村眞一郎、事務局：吉田雅紀、監事：上等トシ、通信編集：内海勇夫、通信発送：小嶋護、ホームページ：山田博一が選任されました。今回からせっかく会員が集まるので発表の場を設けようということで、議事終了後、「定光寺」、「日進岩藤川」、「森林公園」の取り組みがパワーポイントを使って紹介され、さらに犬山の東大演習林の利用についての検討状況の報告が行われました。総会終了後、近くのお好み焼き屋に会場を移し懇親を深めました。

奥三河支部総会

奥三河支部 小山舜二

日時：平成23年1月23日(日) 場所：新城観光ホテル 参加人数：18名

総会は、例年より30分早い9時30分に開催。議事進行・議長を山田由乃庶務会計に委ね、事業報告・会計報告に続き、本年度事業計画などを審議した。支部観察会は指導員の育成・レベルアップを目標に、平成20年度から同一場所で2回異なった指導員をリーダーに実施した結果、かなりの成果を得た。本年はこの成果を踏まえ、鳳来観光協会・JR東海主催の「さわやかウォーキング」での自然観察協力を通して、地域の自然発掘と指導員のレベルアップを図ることを目標に掲げた。

I 役員 会長：小山舜二 副会長：村上和彦 庶務会計：森田邦久

II 平成23年度事業計画

1. 支部研修会 テーマ「塩の道を歩く」袖路峠

日時 平成23年5月21日(土) 10:00~15:00 集合 10時

2. あいちの自然観察会 テーマ「乳岩峡の自然散策」

日時 平成23年6月26日(日) 10:00~12:00 集合 三河川合駅 10時

3. 支部観察会 テーマ「桜淵の自然散策指導」

さわやかウォーキング協力(鳳来観光協会・JR東海主催)

日時 平成23年12月3日(日) 詳細については検討中

4. その他の議題として「会員の高齢化に伴い東三河支部への編入」について議論がなされたが、積極的な会員の勧誘を行い、会を存続することに決まった。

東三河支部総会

東三河支部 梶野 保光

東三河支部（NPO 法人東三河自然観察会）の第 9 期定時総会は、平成 23 年 2 月 5 日午後 2 時から豊橋駅近くの豊橋パークホテルで参加会員 32 名、書面委任者 34 名で開催されました。

定時総会は法務局への提出書類の関係上、岩崎員郎会員を議長、議事録書名人に影山博史会員、高林康三会員を選出して、6 議案の審議、採決を行いました。

22 年度は COP10 開催ということで、会主催の地域自然観察会（豊橋、正宗寺、蒲郡、竹島、豊川、財賀寺）を「COP10 記念観察会」として開催しました。延べ参加者は 156 名でした。COP10 終了後の田原、汐川干潟は参加者 51 名でした。環境省生物多様性保全支援事業の豊橋沖野の豊川河畔林定例自然観察会は延べ 336 名の参加者がありました。愛知県都市整備協会から委託された「東三河ふるさと公園」及び「新城総合公園」の観察会は延べ 669 名の参加者で特に夏休みは盛況でした。また自治体から委託された自然環境調査事業の 3 件の報告も行いました。

23 年度は創立 30 周年記念事業が行われるため、その事業内容、予算等についての審議も行い、続いて次年度理事役員の審議では、全員が再任されました。

今年の自然観察会や記念行事のお知らせは、随时会のホームページに掲載しますのでご覧ください。

総会の締めくくりとして、稻垣隆司会員による「COP10 の成果と今後の国、県の取り組み」天野保幸会員に「オーストラリアの植物」の卓話ををしていただきました。

その後、同ホテルの宴会場での懇親会には、総会には都合で参加できなかった星野芳彦支部長をはじめ浅井聰司会員なども参加して、情報交換や今年の計画について談笑し、有意義な時間を過ごしました。

西三河支部総会

西三河支部 三田 孝

日時：平成 23 年 2 月 5 日（土）14:00～17:00

場所：岡崎竜美丘会館

平成 23 年度の支部総会は会員 15 名の参加で開かれました。平成 22 年度行事報告、会計報告のあと、平成 23 年度役員の選出、活動計画の検討を行いました。

役員配置は、会長：三田 副会長：奥居、馬場 事務局：深見 広報：石川 監査：山原 幹事：伊東・石黒・柵木・水谷・山下・河江・松山・山本博 に決まりました。

新年度の観察会については、支部定例観察会（同一場所で行う観察会）を豊田市の松平郷で年 4 回実施します。西三河各地を巡る支部主催は 4 回を企画しました。4 月香嵐渓（豊田）、6 月おかざき自然体験の森（岡崎）、10 月山中八幡宮（岡崎）、1 月秋葉公園（安城）です。会員が独自に主催する地域定例観察会は 5ヶ所の観察会（くらがり渓谷自然観察会、おかざき自然体験の森自然観察会、おかざき自然体験の森植物観察会、岡崎中央総合公園自然観察の里、平戸橋）が継続されます。豊田若林の観察会は休止とし、新たに西尾いきものふれあいの里の観察会が加わります。会員研修会は 8 月に佐久島で行う予定です。

総会後の講話は、岡田慶範会員に豊田市の哺乳動物の現状についてお話をいただきました。その後、東岡崎駅近くで懇親会を持ち、交流を深めました。

なお、観察会の詳細はホームページ（www.nishimikawa.com）をご覧ください



スミレあれこれ

尾張支部 高谷昌志

春を代表するスミレの花や葉をテーマに自然の造形の妙を見ていきましょう。

■左右対称の花のデザイン

花弁を持った花のデザインは放射型と左右対称型に分けることができます。バラ科・アブラナ科などの放射型はどの花弁も同じ形で多くは上を向き、どんな虫でもいいから訪れてくれという単純な造りの花です。

それに対してマメ・ラン・スミレ科などの左右対称型はかなり複雑です。それぞれの花弁の形や模様が分化し花そのものも横向きに咲いて、特定の昆虫が決められた向きでしか蜜を吸えないようになっています。

スミレの場合は5枚の花弁のうち、一番下の唇弁がとても大事な役割を果たしています。最大の特徴は後ろ側に突き出た袋状の距と呼ばれる部分で、この中に蜜があります。また、唇弁には蜜の在りかを教えるよく目立つガイドマークがあり、ここに着地したハナバチが定められたルートで奥の蜜を吸いに行くのです。

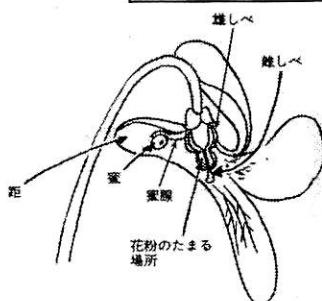
■吊り下げ型の花

花は吊り下げ型で、おしゃべやめしゃべが花の天

井から下向きに出ています。この型にはドウダンツツジやカタクリなどがありますが、その利点の一つは下にいる昆虫に上から花粉を振りかけられることです。

ガイドマークに従って奥に進んだハナバチは途中で必ず花柱（めしゃべ）を押しま

図：花と昆虫不思議なだましあい発見記より



が、それにより上に溜まっていた花粉が落ちハチの頭に着きます。そしてハチが次のスミレに潜ったとき効率よく受粉するのです。

■マキノスミレの葉の裏側

マキノスミレやヒメスミレなどの葉は裏側が赤紫色をしていますが、これがわずかな光を逃さないウルトラテクニックであることはご存じでしょうか。

前提として「植物の葉はなぜ緑色か」ということをざっとおさらいしておきましょう。可視光線は波長別に七つの色に分けられますが、もっと大ざっぱに分類すると赤系・緑系・青系の三つになります。最近はRGBなんていいますね。光合成にはこのうち、赤系と青系の波長の光が利用され、緑系の光はあまり利用されません。つまり葉っぱが緑色に見えるのは、緑系の光が吸収されずに跳ね返されているからです。観察会で「植物は緑色がきらい」と言うと案外びっくりされます。

さて、葉の裏が赤紫色だとどうなるのでしょうか。見えているのは反射された色ですから、赤紫色は大事な赤と青の波長の光を跳ね返しているわけです。ちょっと変な気がしますが、この場合大事なポイントは「日光は上から」ということです。つまり、降り注ぐ赤・青の光は葉の表側でちゃんと吸収します。そして葉緑素が捕らえそこなって普通なら逃がしてしまうわずかな光も裏側の赤紫がブロックして葉の中に戻しているのです。

これは、光の乏しい環境に対応したモッタイナイ戦術で、他にはツルグミ、ツブライジイ、ベゴニアなどにも見られます。

スミレはこれ以外にも閉鎖花や弾け飛ぶタネなど楽しいテーマの宝庫です。「〇〇弁ニ〇〇毛ガアルカラ〇〇スミレ」などの同定だけに終わらないようにしましょうね。

私の活動紹介

奥三河支部 小山舜二

1. 指導員登録の動機

自然豊かな奥三河に生まれ、育ち、稻武町史、設楽町誌、豊川市史の自然史編纂などに携わったことや伊勢・三河湾の環境・藻場、干潟などの調査研究を重ねることによって自然の奥深さを痛感、必然的に指導員登録をしてしまった。

2. 活動紹介

得意分野と言えるほどではないが、一応50年あまり豊川水系の生息魚類調査を継続し、その間魚類の変動、変遷にも興味を持ち、現在も活動を積み重ねている。

また、伊勢・三河港においては幼稚仔の保育場であるアマモ場の再生「藻場造成」に熱を燃やした。

この仕事が災いしたのか、現職（水産試験場）を退いた今でも「藻場はゆりかご」とか「藻場・干潟」の講師依頼がある。

欠点のひとつとして、頼まれると断ることを知らず、また、現地、現状を把握しないと収まらない性分が我ながら情けなくなるが、性格はなかなか直らず、後悔の連続である。

自然観察指導員としては、周囲全域が草花も樹木も野鳥も豊富で、恵まれた環境であり勉強の場であるが、なかなか覚えることができず、もったいない限りである。



▲小山舜二 指導員

観察会では熱中する参加者の「しんがり」から追い上げ役をしているが、図鑑より詳しい参加者には辟易する時もしばしばある。

3. とっておきの観察道具

潜水道具一式、水中カメラ・ビデオ、顕微鏡、ルーペ、双眼鏡等々野帳（何でも記録しておくことに心掛けている）



4. 夢の観察会

清流、豊川を源流から河口まで、もう一度、潜ってみたい。また、上空から生物多様性に富んだ「ふるさと」を望んでみたい。

■ 愛知県自然観察指導員連絡協議会の会員数は400名。会員のみなさんは、日頃何人のメンバーと顔を合わせや情報交換をされているでしょう。この紙面では、県内6支部の会員の具体的な活動内容、観察道具、夢など、その素顔や知られざる一面に迫ります。■ この紙面に登場する会員は、自薦、他薦を問いません。みなさんからの連絡を編集部でお待ちしています。

第6回理事会

日時：2月11日(金・祝)13:30～17:00

場所：なごやNPOセンター

出席者：松尾、降幡、大谷、浅井、石原、近藤、
石田、永田、石川、吉田、布目、齋竹、
滝田、三田、星野、河江

記録：石原

＜報告事項＞

・フォローアップ研修会

平成23年1月22日(土)、23日(日)

海上の森・海上の森センター

「冬の自然観察手法を学ぼう」

参加者：35名(内、協議会会員12名)

・「協議会の日」行事

平成22年12月23日(木・祝)

犬山城・町並み見学、

懇親会：ローレライ麦酒館

参加者：15名

議案1

平成22年事業報告の確認

1 自然観察会、あいちの自然観察

2 全国一斉自然観察会 環境週間

(財)日本自然保護協会協賛事業

3 研修会

4 COP10開催記念自然観察会

COP10支援実行委員会協賛事業

5 COP10イベント

指導員協力 45名

6 COP10ブース展示「熱田会場」

指導員協力 58名

7 フォローアップ研修会

8 協議会の日

9 総会・講演会

10 機関紙「協議会ニュース」(年4回発行)

3月、5月、8月、12月

11 理事会

議案2

平成22年度収支決算報告の確認

議案3

役員改選の件

- ・2年に1度の改選、23年度は該当なし
- ・会計業務引き継ぎについて、会計補佐担当理事に確認をする

議題4

平成23年度事業(案)の検討および確認

- ・ふるさとあいちの自然観察会について

日時、内容などの調整

(詳細は本紙p12参照)

- ・なごや環境大学共育講座について

日時、内容などの調整

(詳細は本紙p11参照)

- ・支部研修会

(詳細は同封の総会資料参照)

- ・調査活動

タケの分布調査

- ・指導員講習会

9月17日(土)～19日(月・祝)

場所、講師は今後の検討

- ・機関紙「協議会ニュース」(年4回発行)

3月、5月、8月、12月

- ・理事会 5回開催予定

1回目 3月21日(月・祝)

2回目 5月5日(木・祝)

3回目以降については1回目に調整を行う

- ・協議会の日

11月23日(水・祝)午前中

揚輝荘(覚王山)の見学予定

担当 石原

- ・30周年記念事業について検討

日程：11月23日(水・祝)

場所：ルブラ王山(予)

担当：石原、石川、吉田

議題5

- ・平成23年度予算(案)の検討および確認

その他

- ・来月3/21の総会・講演会について、日時・

場所・当日の役割分担の最終確認

フォローアップ研修 冬の観察手法を学ぼう

名古屋支部 高見智香

1月22日（土）、23日（日）に「冬の観察手法を学ぼう」というテーマで、フォローアップ研修が「あいち海上の森センター」にて開催されました。参加者は定員を超える35名でした。

私は昨年7月に、福井県立芦原青年の家で自然観察指導員講習会を受けたばかりでしたので、冬の観察にはどんなテーマがあるのだろう、と興味津々で参加いたしました。

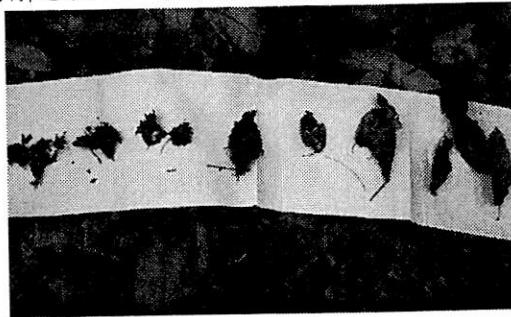
■ 1月22日

* 寒くても元気な土壤生物たち *

開講式が終わると早速工作室へ移動です。工作？と思っていたら、土壤生物を集めるための「ツルグレン装置」を身近なもので作りましょうとのことでした。

100円ショップで手に入るようなもので、手作りできるのだなと感心しました。

先生のご指導の下、各班装置を作ると、野外観察と土壤採集です。土壤採集では「落ち葉めくり」をしながら、落ち葉が分解されていく過程を観察しました。



▲ 落ち葉めくりの様子

集めてきた土壤を簡易ツルグレン装置にセットして、土壤をライトの熱で乾燥させると、土壤生物達が下へ逃げてきます。その間に先生の講義です。冬の自然観察のテーマの紹介でしたが、こんなにたくさんのテーマがあるのだなと気づかされました。

午後はいよいよ土壤生物の観察です。事務局の方々が苦心して集めてくださった顕微鏡「ファーブル」で観察を始めた途端、各班から「わあ、たくさんいるいる」「これは何？」「変わったのがいるよー」と歓声が上がりました。

目には見えないけれど、自分達の足の下では、寒くともこんなにたくさんの生き物が活動しているのだなと改めて驚くとともに、大人の私達でもこんなに楽しいのだから、子供はもっと喜ぶだろうなと感じました。

その後は、昨年10月に名古屋でCBD-COP10が開催されたことを受けて、生物多様性についてのご講義でした。私の中ではCOP10について、未消化な部分があつたので、考えさせられる点が多くありました。

■ 1月23日

* 個性が光る観察会の実演 *

2日目は、各自テーマを考えて、冬の観察会を実演することになりました。始めは個人で少人数に対して、次はチームを組んで多人数に、という形でした。

同じ森をテーマにしても、こういう見方や気づきがあるのだなと新鮮に思いました。また語りかけ方ひとつで優しい気持ちになれたり、元気な気持ちになれたり、参加者の方の個性がきらきら光っていたように思います。

今回は書ききれませんでしたが、1日夜の懇親会でも、それぞれ熱く語り合い、2日目の朝と午後には、尾張支部の方々の好意でオプション観察会が開かれ、とても充実した2日間でした。

冬はどうしても観察テーマが少くなりがちだし、寒いし、と思っていたが、「冬だからこそ」の観察方法もあるのだなと、とても勉強になったと思います。

■なごや環境大学共育講座「ふるさとあいちの自然観察会」

| 日 時 | 集 合 場 所 | テ 一 マ | 担 当 |
|---------------------------|------------------|-----------------------------|-------|
| 4/29 (金・休) 10:00-14:00 | JR 高蔵寺駅 | 名古屋市東谷山 東谷山の自然にふれてみよう | 名古屋支部 |
| 5/29(日) 9:30-14:00 | 名鉄 善師野駅 | 犬山市善師野 善師野の自然と歴史にふれてみよう | 尾張支部 |
| 7/31(日) 9:30-12:00 | JA あいち 知多奥田支店 | 美浜町奥田海岸 奥田海岸で水辺の生きものを探そう | 西三河支部 |
| 8/28(日) 10:00-14:00 | JR 三河川合駅 | 新城市乳岩峡 奥三河の自然にふれてみよう | 奥三河支部 |

==== 事務局より ====

■30周年記念事業について

愛知県自然観察指導員連絡協議会は、昨年30周年を迎えるました。その記念事業は COP10事業と重なり、1年先送りとなっていたものです。本年度平成23年的一大事業として、有意義なものにしたいと思っています。

事業内容について、会員のみなさんから是非積極的な提案をお願いします。また運営についてもご協力ください。

■COP10記念観察会報告書作成

昨秋のCOP10終了後、大谷副会長を中心各観察会の代表者のみなさんのレポートにより、報告書作成が行われています。完成までいましばらくお待ちください。

■今秋の自然観察指導員講習会について

9月に自然観察指導員講習会を予定しています。そこで会員のみなさんにお願いです。観察会の参加者の常連さん、あるいは観察会で熱心な方は、自然観察指導員候補者です。その方に、講習会の時期や指導員のシステムなどの情報提供をお願いします。

また、主催である愛知県の都合により、指導員講習会は通いとなる可能性があります。その折には、これまで以上に協議会の協力体制が必要となります。その節はみなさんの協力をよろしくお願ひいたします。

■タケの分布調査について

各地でタケの繁茂が問題となっています。愛知県も同様です。本年から協議会として現状把握調査を実施します。詳細は今後「協議会ニュース」などでお知らせしますので、自宅周辺や通勤途中、買い物途中などに下調べをしてデータ収集にご協力ください。

■なごや環境大学共育講座について

昨年度に引き続き本年度もなごや環境大学共育講座を行います。目的は「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」。行動する市民、協働する市民として、「共に育つ(共育)」ことをめざす講座です。

■会費について

協議会の会計年度は、2月1日より翌年1月31日となっています。会員のみなさんは、協議会年会費2,000円を各支部の年会費(支部によって異なりますので、支部会計担当に確認ください)と併せて納入ください。尚、年会費支払いが7月末日までない場合は、「協議会ニュース」送付が停止されますのでご注意ください。(事務局 浅井)

<< 行事案内 >> 

■あいの観察会 (5/22 国際生物多様性の日、6/5 環境の日に合わせて開催)

| 日 時 | 集 合 場 所 | テ ー マ | 担 当 |
|-------------------------|---------------|----------------------------|-------|
| 5/5 (木・休) 9:30-12:00 | 熱田神宮 東門前 | 神宮の森を観察しよう | 名古屋支部 |
| 5/8 (日) 9:30-12:00 | 武豊町長城池公園駐車場 | 初夏の草花・花木を 訪れる生きものを見てみよう | 知多支部 |
| 5/14 (土) 9:00-12:00 | 定光寺山門前 駐車場 | 水辺の生きもの | 尾張支部 |
| 5/21 (土) 10:00-12:00 | 松平東照宮 駐車場 | 松平郷 山里の初夏の植物観察 | 西三河支部 |
| 6/5 (日) 8:00-10:00 | 葦毛湿原駐車場 | 豊橋市葦毛湿原 初夏の葦毛で早朝観察会 | 東三河支部 |
| 6/26 (日) 10:00-12:00 | JR 三河川合駅 | 新城市乳岩峠 乳岩峠の自然散策 | 奥三河支部 |

■支部研修

- 5/21(土) 塩の道を行く (杣路峠) 奥三河支部
 5/29(日) アツモリソウと初夏の野草観察 (岐阜県上矢作町) 名古屋支部
 7/30(土) クロユリと高山植物観察 (長野県御岳田の原) 名古屋支部
 7/30(土)31 (日) 一泊研修 (行き先・テーマなど未定) 尾張支部



編集部から

- 本年の表紙は脇田裕子さん (名古屋支部) のイラストです。四季折々のイラストをお楽しみに。 ■ 編集委員として新たに新山雅一さん (名古屋支部) が関わることになりました。脇田さん、新山さん共に、一昨年の秋に指導員登録をされた新人です。乞うご期待!

編集スタッフ
 岡田 雅子 近藤 記巳子
 新山 雅一 山口 健
発送スタッフ
 岩沙 雅代 横井 邦子

「協議会ニュース」編集部
 〒457-0006 名古屋市南区鳥栖 2-6-17
 桜本町 C H 101
 近藤 記巳子
 TEL / FAX (052) 822-7460
 E-mail : konkimi@nifty.com

- 愛知県自然観察指導員連絡協議会 (あいち自然観察会) 事務局 (当面)
 〒486-0904 春日井市宮町3-6-2 Tel (0568) 32-5069 松尾 初
 ■ Web Page : <http://naichi.net/>
 ■ 郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)